

資料

一般農家における SPF 豚飼育の 1 例

渡辺 忠雄* 平野 一夫** 笹生 孝次*** 花岡 秀昌****

はじめに

住友 SPF 豚を住商鬼怒川 SPF 豚農場から千葉県木更津地区に運搬し肉豚生産を開始している。すなわち、渡辺 SPF 豚農場、平野 SPF 豚農場、および笹生 SPF 豚農場で現在までに 140 頭の繁殖雌系統の豚と、8 頭の種豚雄系統の豚を導入し、三農場で SPF 豚の一貫飼育を行なっている。

飼育に当っては、三農場ともに SPF 豚を飼育するため SPF 豚以外は導入せず、また、飼

料および器材の搬入に際してはその表面を消毒し、人はシャワーや衣類の交換を行なって今日まで各 SPF 状態を保っている。

各 SPF 豚農場の飼育状態

各農場ともに前述した SPF 豚飼育管理の根本原則を守り設備配置を行なった。

渡辺 SPF 豚農場は 図 1 のような農場である。農場内に入る 飼料は、SPF 豚専用飼料ではあるが飼料消毒室でホルマリンガスで袋の外部消毒をされた飼料のみを使用している。管理

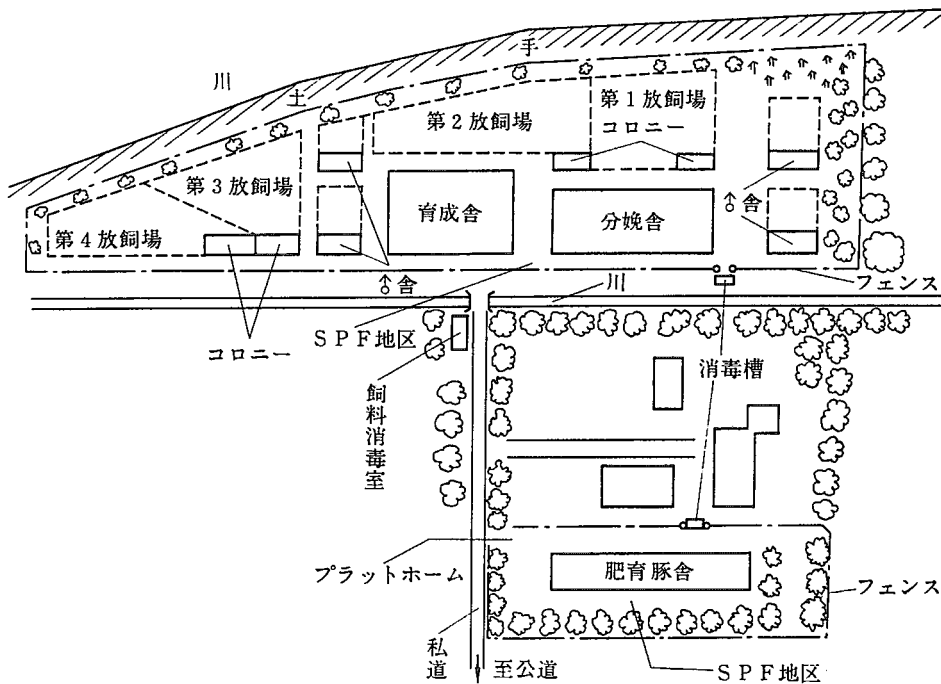


図 1 渡辺 SPF 豚農場

* 渡辺 SPF 豚農場 ** 平野 SPF 豚農場 *** 笹生 SPF 豚農場 **** 住商飼料畜産(株)

者は、母屋で繁殖農場専用の作業衣および長グツに取り換え、消毒槽で手足を洗ってから農場内に入る。部外者が止むをえず（予防注射などで）SPF 地区に入る場合は、母屋の浴室で体を洗い農場の専用作業衣などを使用してもらう。一応、肉豚舎の管理も繁殖農場の場合に準じ当舎専用のものを使用している。

SPF 地区への車の出入は禁じ、豚の出入に対してはプラットホームを利用し、さらにプラットホームからデポット（豚集約所）まで自分

の車で肉豚を輸送し、さらにデポットからと場へは他の輸送車を利用する。一度出荷された豚は二度と SPF の地区には入れない。

平野 SPF 豚農場は図2および写真1のような設備配置の農場である。この農場の場合は渡辺農場と同様の飼育管理をしているが、豚舎はウインドレスで、また、管理者もシャワーおよび浴室で体を洗い農場専用の衣類などを利用する。

一方、笹生 SPF 豚農場は渡辺 SPF 豚農場

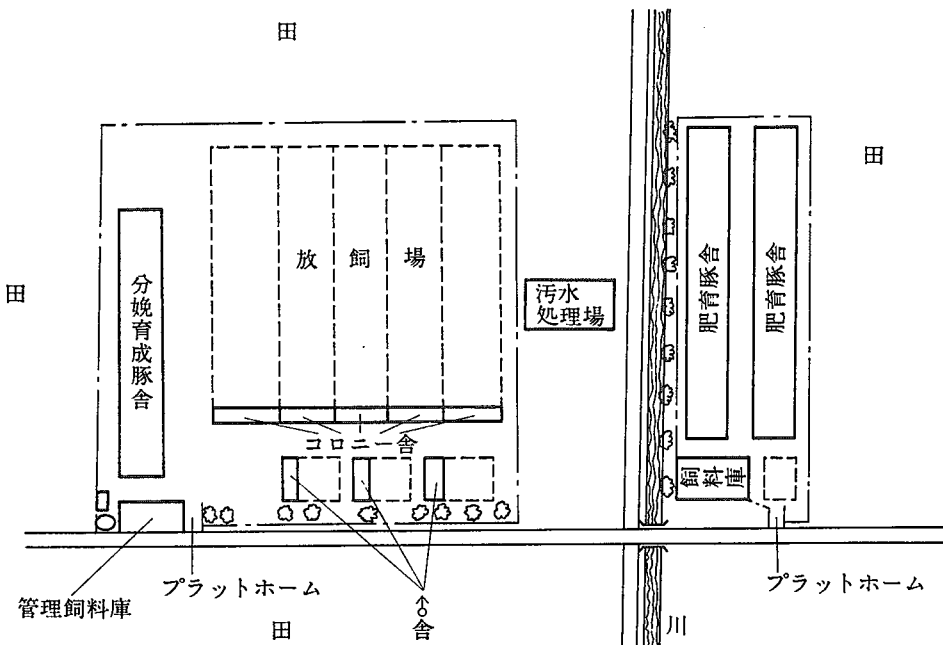


図2 平野SPF豚農場

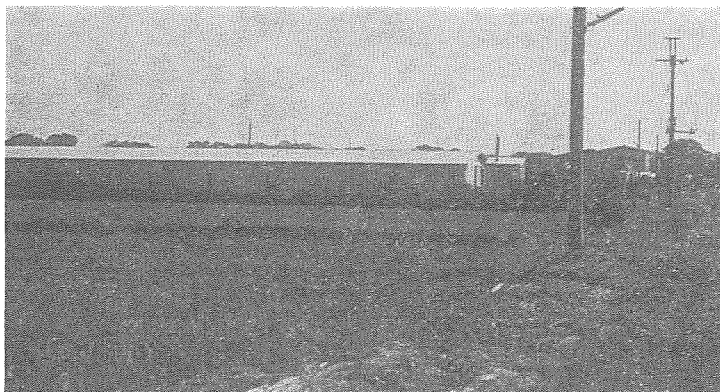


写真1 平野SPF豚農場

と大体同様の管理規制を行なっている。

**コマーシャル (CM) SPF 繁殖豚
の導入および育成**

各農場ともに SPF 豚を導入する場合は放飼場には土壌を約 25cm 掘りかえしたのち生石灰または石灰窒素を散布した。また豚舎では、新設豚舎のみコンクリートのアクスキを行なった後クロールヘキシジンにより消毒し、設備点検後に導入した。

導入した SPF 豚は渡辺農場では繁殖豚雌 50 頭および種雄豚 3 頭、また平野農場では繁殖豚雌 50 頭、種雄豚 3 頭、笹生農場では繁殖豚雌 40 頭、種豚雄 2 頭の割合で導入した。

輸送にはストレスニルを使用したものと無処置のものとは別々に輸送したが、ストレスニルの処置をした豚は足の傷害および豚間の闘争などがほとんどなく、好条件で運搬し得た。

導入された豚は、生体重 50 kg~130 kg のもので輸送中の事故は 1 件もなく輸送後 1 頭の事故のみであった。

飼料給与は、初種付までの繁殖豚に対しては 1 日当り 2.0~2.5 kg の計算で 3 日分を一度に与え、これを 3 日おきに給餌した (いわゆる制限不断給餌法)。

このような給与形態をした場合、139 頭中 5~6 頭が育成中に胃潰瘍の症状がみられたので、これらを予防するため、飼料が切れた時に牧草などを与え胃潰瘍の予防をした。その結果育成期間中に胃潰瘍による事故は 3 頭だけにとどまった。

このことから繁殖豚や育成種豚に対し夏場は牧草を与え冬期にはハイキューブやサンキニア

をホルマリンガス消毒をしたものを与えるよう心掛けた。

CM・SPF 豚の繁殖成績

SPF 豚の繁殖成績として、繁殖雌豚では L W, W L, L H, 雄豚は Hamp Shire を使用してきたが、これらの繁殖成績は表 3 のようである。これらの成績中初産時に育成率が悪いのは設備に慣れていないためと思われたが、それ以後は 90% 以上の育成率となっている。また、2 産目以後については分娩腹数が少ないため今後のデータを整理したい。

また、これらの成績で繁殖豚の受胎率は、次のようである。

初産目	140 頭中	136 頭	97.14%
2 産目	105 頭中	100 頭	95.23%
3 産目	48 頭中	47 頭	97.91%
4 産目	38 頭中	35 頭	92.10%
5 産目	10 頭中	8 頭	80.00%
6 産目	2 頭中	2 頭	100.00%

CM・SPF 豚の肥育成績

SPF 豚の CM の肥育テストでは、写真 2 のように Conventional に比較してばらつきが少なくなっているのが特徴である。このうち 4 腹の 40 頭の雌およびヌキ雄などの肥育テストは表 2 に示した。

これに使用した飼料は SPF 豚専用のもので人工乳では TDN 80.6, DCP 16.8 のスプリンター BP と TDN 78.1, DCP 14.2 のスプリンター CP, また TDN 76.0, DCP 13.5 の肥育用飼料を使用している。

表 1 渡辺農場の繁殖成績

	分娩腹数	分娩頭数	1 腹当り平均分娩頭数	離乳頭数	1 腹当り平均離乳頭数	平均生時重	育成率	20 kg 到達日齢	現妊娠中
初産	105	985	9.38	872	8.30	1.34	88.52%	57.8	31頭
2 産	48	480	10.00	442	9.21	1.45	92.08%	57.2	52頭
3 産	38	366	9.63	346	9.11	1.52	94.53%	56.1	9頭
4 産	10	108	10.80	99	9.90	1.51	91.66%	58.3	25頭
5 産	2	23	11.50	22	11.00	1.49	95.65%	57.4	6頭

表2 渡辺農場の肥育成績

	調査頭数	♀	♂	調査開始日	調査開始年齢	平均体重	調査終了日	調査終了年齢	調査終了平均体重	1日平均増体重	F C	と体重	歩留り	上物率
1	10	5	5	54		20.1	155		91.68	709.7	2.72	61.25	66.80	80%
2	11	5	6	56		20.2	183		99.04	627.0	2.46	64.14	64.37	90.9%
3	8	4	4	55		19.8	174		95.38	633.5	2.76	68.04	71.33	85%
4	11	6	5	60		20.2	173		93.05	646.4	2.76	66.81	71.80	81.8%
平均	40	20	20	56.25		20.075	171.25		94.94	654.15	2.675	65.06	68.52	85%

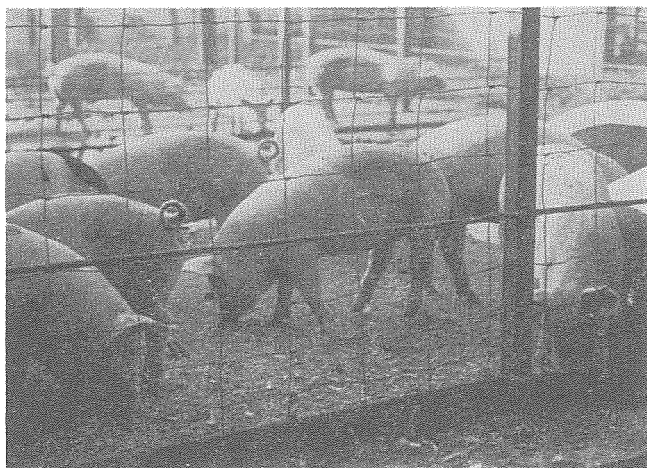


写真2 CM・SPF肥育豚

む す び

今回紹介したように、SPF豚が一般農家へ出して飼育しても常にSPF豚の基本原則を守ってSPF豚状態を保つかぎりConventionalに比較して良い成績を上げ収益性の高い豚が得られることが明らかとなった。

また、現在までと場出荷したSPF肥育豚の各臓器を剖見した結果、いままでのところSPF状態であることが確認され、肥育成績を裏付け

ることとなっている。また、飼育中にほとんど下痢が見られない反面、オガクズ使用の場合には無気肺になることがあるのでオガクズをチップに代えることによってより良い状態になっている。

これらのことから慢性伝染病をなくし、パランスのとれた経営を行なうことによってSPF豚の利点が益々明確にされてきたことを強調したい。